



関連病院での論文作成：CRST（関連 CRST）支援を受けて

☆推薦文☆

一流誌への full-length case report は狭き門だ。高澤一平先生のは revision なし accept だった。敬意を表す。さて、CRST は地域臨床教育センター医師支援 (kCRST) を開始した。2010 年の創設から 12 年。卒業生・学内・学生・関連病院、全方面への支援体制が完成した。高澤先生が kCRST 第 1 号になった。

CRST は友情と学問的興味で成立している。現世の御利益とは無縁だ。が、時にはそれもある。32 年前 (1990 年) に県南総合病院 (佐野市民病院) へ派遣され、田沼町へ転居した時期があった。高澤君は、私の長男 (松原大輔) の田沼小同級生親友で、愛らしい少年だった。その少年・大輔・私とで論文を書くなんて、...。32 年の時を経て、学問を介して友情を再度育む。CRST が与えてくれた喜び・現世の御利益である。

(松原茂樹：CRST 代表、自治医大名誉教授・客員教授)

高澤一平先生は心臓血管外科の激務をこなしながら、市中病院での貴重な経験を形にした。彼は小学校の同級生でもあり、誇らしく思う。やる気ももらった。私は自治医大卒後 9 年を、栃木や京都の僻地で勤務した。僻地勤務の間に、その重要性に気付かず、私の目の前を通りすぎてしまった症例も多々あったのかもしれない。一般診療に潜む「不思議なこと」をもっともっと発信できればと思う。CRST 一員としても、お手伝いしたい。

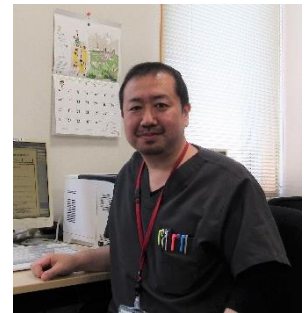
(松原大輔：CRST メンバー、自治医科大学小児科講師)

自治医科大学附属病院心臓血管外科 高澤 一平

自治医科大学附属病院心臓血管外科の高澤一平です。2021年7月より茨城県古河赤十字病院 (古河日赤) に勤務しております。今回、Journal of Obstetrics and Gynaecology Research誌に、私の筆頭論文が accept・掲載されました。

心臓血管外科の私がなぜ産婦人科雑誌に投稿したかと言いますと、古河日赤に非常勤として外来勤務しておりました2021年の春のことです。前年まで自治医大産婦人科教授で、その時 (現在もですが) 古河日赤婦人科勤務の松原茂樹先生から両側卵巣静脈血栓症 (ovarian vein thrombosis: OVT) 疑い症例を診てもらえないか? とご相談がありました。

患者さんは基礎疾患のない60台女性で、下腹部持続痛を主訴に日赤を受診しました。D-dimer が $3.9\mu\text{g/ml}$ と上昇しており、造影CTで両側OVTが認められます。OVTによる腹痛と診断し、DOAC (抗凝固剤) の内服を開始しました。血栓は次第に溶解し、症状は消失し、良好な経過を辿りました。松原先生より基礎疾患のない両側OVTは非常に稀で、論文作成してみてもは? とのご提案がありました。松原先生から論文作成サポートをいただき、無事論文投稿・accept・掲載に至りました。論文作成では、自治医大小児科の松原大輔先生、同産婦人科の高橋詳史先生にもご協力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。



「女性の原因不明の腹痛では、OVTを念頭におくべき」が最も伝達したいメッセージです。下肢静脈血栓症や肺塞栓症は血管外科ではしばしば目にしますが、OVTは滅多にお目にかかりません。OVTの中には、本例のように、基礎疾患もなく、エコー検査や単純CT検査では発見困難な例があります。外来でファーストタッチをする血管外科以外の先生方（総合医や内科医）のご参考になればと思います。

私は自治医大、国際医療福祉大学病院、そして現在は古河日赤と3つの医療機関を渡り歩いてまいりました。それぞれの病院の特性もあり、比較は簡単ではありませんが、論文作成・研究をする上で、市中病院は症例数・種類、アドバイスを頂ける専門医数等において大学病院に敵いません。報告するに値する症例に出会いましても専門の先生方のご助言を頂けなかったり、論文に行き詰った際の相談相手がいなかったりといった状況は多々あります。

私が幸運だったことは：産婦人科専門医でCRST代表である松原先生が古河日赤にいらっしやったこと。自治医大小児科松原大輔先生（メンバー）や、同産婦人科の高橋先生がそれぞれの分野でこの疾患に造詣が深く、その様な先生方との連携をCRSTが構築してくださったこと。それで、この論文が世に出ました。

今回論文は本来のCRSTシステムを拡大し、関連病院勤務者への援助も行う、その「関連CRST」第1号だとお聞きしました。自治医大内部と関連病院が研究や論文作成において、さらに強く結びつくことは、私の様に外病院勤務の者にとっては朗報だと思います。今度は、微力ながらCRST支援側に回るチャンスがあれば、と願っています。

Takazawa I, Matsubara D, Takahashi Y, Matsubara S. Bilateral ovarian vein thrombosis without underlying conditions: A case report. J Obstet Gynaecol Res (in press) 2022 Feb 17. doi:10.1111/jog.15182

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行]自治医科大学大学院医学研究科

地域医療オープンラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL 0285-58-7476/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp

<https://grad.jichi.ac.jp/>